

経済指標

1. 経済指標で見る「地域経済情勢」

◆ 日本経済（内閣府「月例経済報告」[2026年7月]）◆

景気は、緩やかに回復しているが、中東情勢の影響を注視する必要がある

※ 2024年8月以降、表現変更はあるものの、景気判断に変化なし

個人消費

※（ ）内は、4月以降の判断変化

- ・ 持ち直しの動きがみられる（変化なし）

企業活動

- ・ 生産は、横ばいとなっている（変化なし）
- ・ 業況判断は、おおむね横ばいとなっている。ただし、先行きについてはやや慎重な見方となっており、中東情勢の影響を注視する必要がある（4月に表現変更）
- ・ 設備投資は、持ち直している（4月に上方修正）

◆ 和歌山県経済 ◆

和歌山県経済には弱さが見られる

個人消費

- ・ 百貨店・スーパー販売額（6月）は、前年同月比 2.2% 減となった
- ・ 新車販売台数（軽自動車〔乗用〕含む、6月）は、3か月連続で前年を上回った
- ・ 新設住宅着工戸数（6月）は、3か月連続で前年を上回った

企業活動

- ・ 鉱工業生産指数（季節調整値、5月）は、3か月連続で上昇した
- ・ 公共工事請負金額は、4月～6月累計で前年同期比 3.9% 減となっている
- ・ TDB 景気 DI（6月）は前月から 1.0 ポイント上昇し、4か月ぶりに上昇した

◆ 大阪府経済 ◆

大阪府経済は、一部に弱さも見られるが、持ち直している

個人消費

- ・ 百貨店・スーパー販売額（6月）は、4か月連続で前年を上回った
- ・ 新車販売台数（軽自動車〔乗用〕含む、6月）は、3か月連続で前年を上回った
- ・ 新設住宅着工戸数（6月）は、2か月連続で前年を上回った

企業活動

- ・ 鉱工業生産指数（季節調整値、5月）は、前月比 6.4 ポイント上昇した
- ・ 公共工事請負金額は、4月～6月累計で前年同期比 3.3% 増となっている
- ・ TDB 景気 DI（6月）は 42.3 となり、2か月連続で上昇した

経済指標

2. 経済指標で見る「和歌山県経済」

和歌山県経済には弱さが見られる

和歌山県に関する経済指標の概況（6月指標を中心に）

＜個人消費＞

- 百貨店・スーパー販売額（6月）は、前年同月比 2.2%減となった。
- 新車販売台数（軽自動車〔乗用〕含む、6月）は、3 か月連続で前年を上回った。
- 新設住宅着工戸数（6月）は、3 か月連続で前年を上回った。

＜企業活動＞

- 鉱工業生産指数（季節調整値、5月）は、3 か月連続で上昇した。
- 公共工事請負金額は、4月～6月累計で前年同期比 3.9%減となっている。
- TDB 景気 DI（6月）は前月から 1.0 ポイント上昇し、4 か月ぶりに上昇した。

＜その他＞

- 消費者物価指数（和歌山市、6月）は、幅広い品目で物価上昇が続いている。
- 有効求人倍率（6月）は 0.94 倍となり、約 5 年半ぶりの低水準。
- 家計消費支出（住居等を除く、5月）は、4 か月ぶりに前年を下回った。

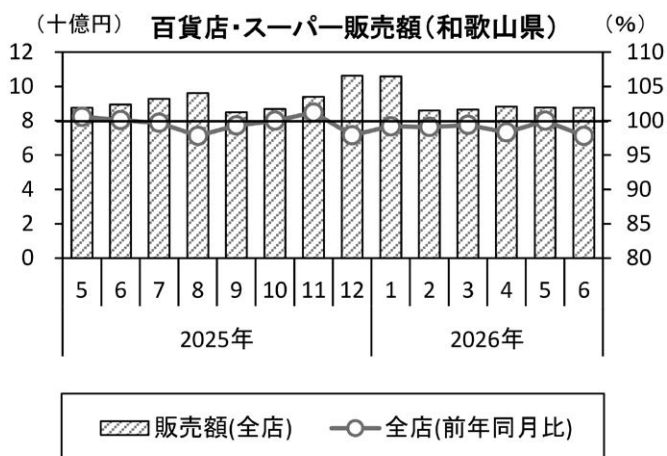
和歌山県の経済指標の概況変化（前年同月との比較 ※一部は前月比較）

		2025年								2026年							
		5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6		
個人消費	百貨店・スーパー販売額	○	○	●	●	●	—	○	●	●	●	●	●	—	●		
	新車販売台数(登録車、軽自動車〔乗用〕含む)	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○		
	新設住宅着工戸数	●	○	○	●	○	●	●	●	○	○	○	○	○	○		
	家計消費支出(除く住居等、二人以上の世帯)	○	○	●	●	○	●	○	○	●	○	○	○	●			
企業活動	鉱工業生産指数 ※前月比	●	○	○	○	○	●	●	●	○	●	○	○	○			
	公共工事請負金額	●	○	○	●	●	●	○	●	●	●	○	●	○			
	TDB景気DI ※前月比	●	●	○	○	○	●	○	●	○	○	●	●	●	○		
物価	消費者物価(コアコアCPI、和歌山市)※前月比	○	—	●	○	○	○	—	—	●	○	○	○	○	○		
雇用	有効求人倍率(季節調整値)	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		

(注) ○：上昇(増加) —：横ばい ●：下降(減少)、空白はデータ未発表

百貨店・スーパー販売額

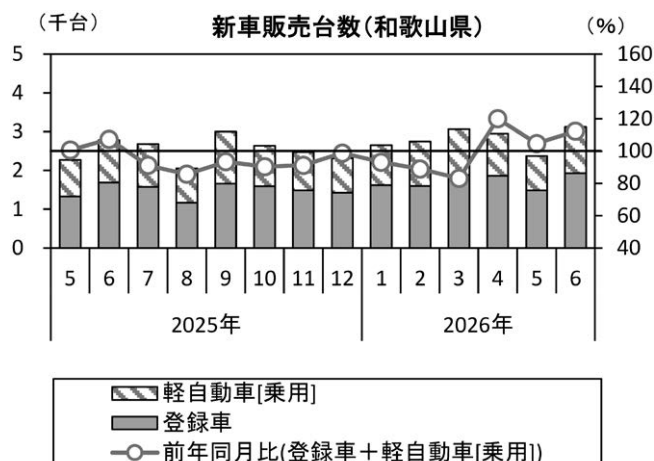
百貨店・スーパー販売額（6月）は、前年同月比2.2%減となった。近鉄百貨店和歌山店の販売額（6月）は、前年同月比0.5%増となっており、2か月ぶりに前年を上回った。和歌山市内の消費者物価指数を見ると、生鮮食品を除く食料品価格は上昇率が鈍化する一方で、依然として高い水準にあり、家計の節約志向は強まっているものと考えられる。



(資料)経済産業省「商業動態統計調査」

新車販売台数

新車販売台数(軽自動車[乗用]含む、6月)は、前年同月比12.3%増となり、3か月連続で前年を上回った。内訳を見ると、登録車、軽乗用車ともに前年を上回っている。自動車税及び軽自動車税の環境性能割が2026年3月31日をもって廃止され、4月以降の購入時負担が軽減されたことで、需要が高まったものと考えられる。

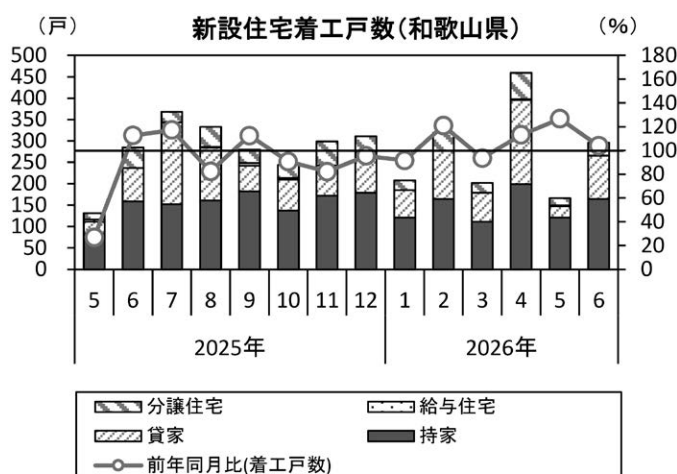


(資料)一般社団法人全国軽自動車協会連合会ウェブサイトならびに和歌山県自動車販売協会資料

新設住宅着工戸数

新設住宅着工戸数(6月)は、前年同月比3.9%増となり、3か月連続で前年を上回った。

内閣府「月例経済報告」によると、全国の住宅建設は「弱含んで」おり、住宅種別では、「持家」及び「分譲住宅」が弱含んでいる。背景には、建築コストの上昇に伴う住宅取得負担の増加などがあるものと考えられる。



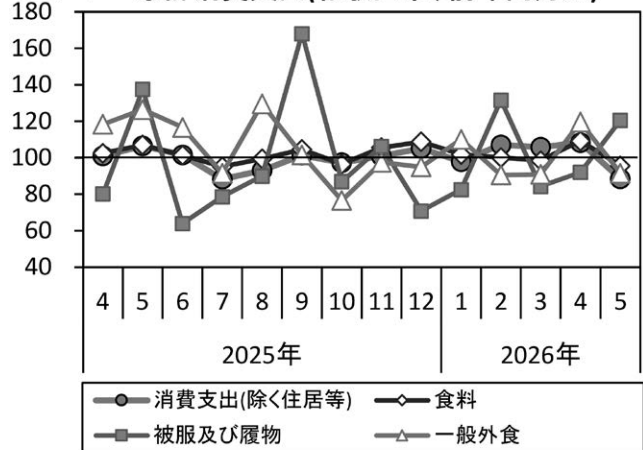
(資料)国土交通省「住宅着工統計」

家計消費支出

家計消費支出（除く住居等、5月）は、前年同月比 11.6% 減となり、4 か月ぶりに前年を下回った。費目別にみても、消費支出全体に加え、食料及び一般外食への支出が前年同月を下回っている。食料価格の高止まりを背景に、消費者の節約志向が強まり、購入数量の抑制や低価格帯商品の選択が進んでいるものと考えられる。また、一般外食においても、外食回数の減少や利用単価の抑制などの影響が生じているものと考えられる。

※調査対象の世帯が約 90 と少ない点に留意

(%) 家計消費支出(和歌山市、前年同月比)



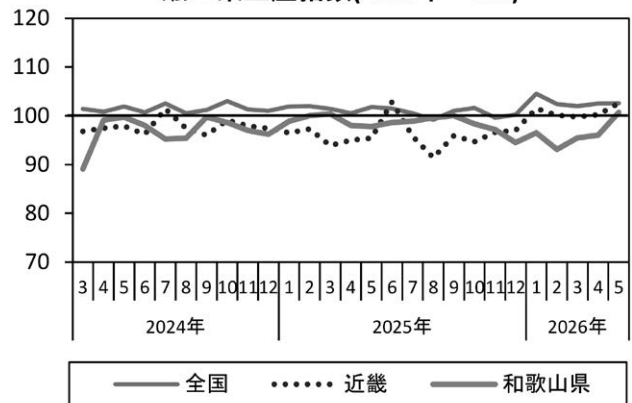
(資料)総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

鉱工業生産指数

鉱工業生産指数（5月）は、100.7 となっており、前月から 4.7 ポイント上昇した（上昇は 3 か月連続）。業種別では、はん用機械工業が前月比 10.8 ポイント上昇、化学工業が同 11.5 ポイントの上昇となり、この 2 業種が全体の上昇を大きく押し上げた。鉄鋼・非鉄金属工業が同 4.1 ポイント上昇、食料品工業も同 5.5 ポイントの上昇となった。

一方、金属製品工業（同 18.1% 減）など、下降した業種も見られる。このため、県内の生産活動は全体として持ち直しているものの、回復は一部の主要業種に支えられた面が大きい。

鉱工業生産指数(2020年=100)

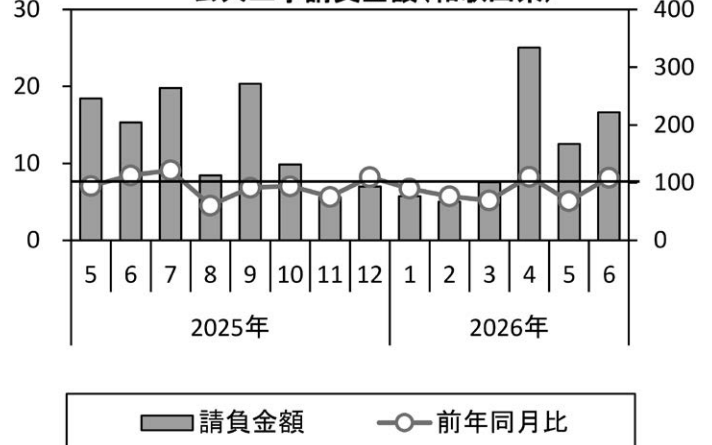


(資料)経済産業省「鉱工業指数」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」
和歌山県調査統計課ウェブサイト

公共工事請負金額

公共工事請負金額（6月）は、前年同月比 8.8% 増となった。4 月～6 月累計での公共工事請負金額は、前年同期比 3.9% 減となっている。内閣府「月例経済報告」によると、全国の公共投資は「堅調に推移している」となっているが、県内については、今後の大型工事の発注状況や資材価格、人手不足の影響を注視する必要がある。

(十億円) 公共工事請負金額(和歌山県) (%)



(資料)西日本建設業保証㈱「公共工事動向」

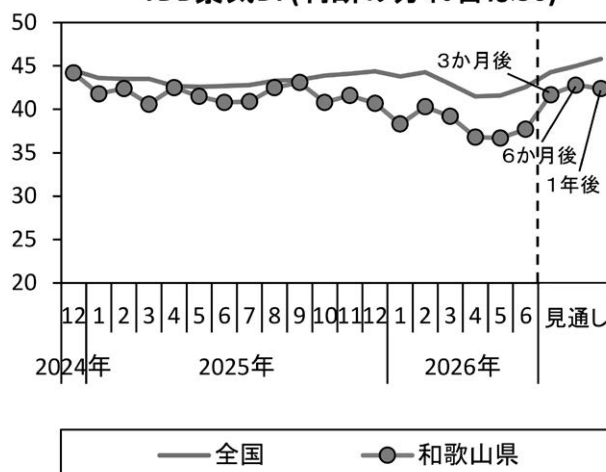
景況感 (TDB 景気 DI)

TDB 景気 DI は、(株)帝国データバンクが月次で実施している景気動向調査から算出された景況感を表す値である。この値が 50 を超えると、現在の景気を「良い」とする事業者数が「悪い」とする事業者数を上回る。

6 月の景気 DI は、37.7 と前月から 1.0 ポイント上昇した（上昇は 4 か月ぶり）。業界別では、「製造」、「卸売」、「運輸・倉庫」などで改善がみられた一方、「建設」や「サービス」では悪化した。

帝国データバンクは、「県内各業種ともに価格転嫁を進めて売上は増収になる企業は多いものの、受注数量は減少している会社が多く、増収減益の企業が多く散見される。」としている。

TDB 景気 DI (判断の分れ目は 50)

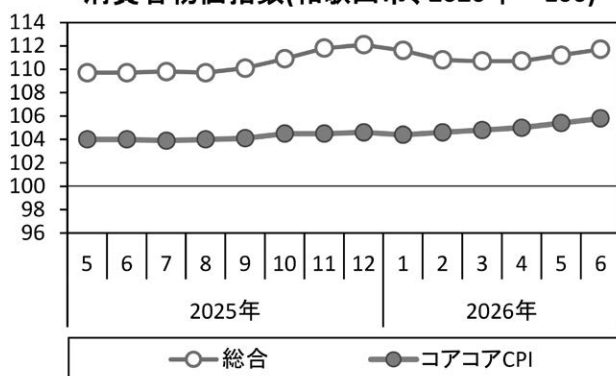


(資料) (株)帝国データバンク

消費者物価指数

和歌山市の消費者物価指数（6 月）は、総合が 111.7 となり、前月比 0.5 ポイント、前年同月比 2.0 ポイントの上昇となった。また、コアコア CPI（生鮮食品及びエネルギーを除く物価指数）は 105.8 となり、前月比 0.4 ポイント、前年同月比 1.8 ポイントの上昇となった。生鮮食品やエネルギーを除いても物価が上昇していることから、価格上昇は一部の品目に限らず、幅広い品目に及んでいる。食料、住居、交通・通信など生活に密接な費目の上昇が続いており、家計の負担感は依然として強い。

消費者物価指数(和歌山市、2020年=100)



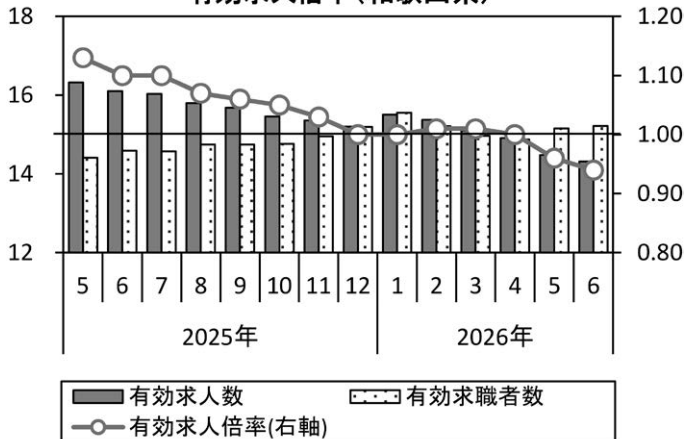
(注) コアコアCPIは食料(酒類を除く)及びエネルギーを除いた物価指数。
(資料) 総務省「消費者物価指数」

有効求人倍率

和歌山県の有効求人倍率（季節調整値）は、6 月に 0.94 倍となり、前月から 0.02 ポイント下降した。求人が求職者数を下回る状況が続いている。新規求人数は前年同月比 8.3% 減と、9 か月連続で前年を下回った。2020 年 12 月の 0.95 倍を下回り、約 5 年半ぶりの低水準となった。

和歌山労働局は県内の雇用情勢について、「持ち直しの動きに弱さがみられ、一部には厳しさが見られる」と判断している。

有効求人倍率(和歌山県)



(資料) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

経済指標

3. 経済指標で見る「大阪府経済」

大阪府経済は、一部に弱さも見られるが、持ち直している

大阪府に関する経済指標の概況（6月指標を中心に）

＜個人消費＞

- 百貨店・スーパー販売額（6月）は、4か月連続で前年を上回った。
- 新車販売台数（軽自動車〔乗用〕含む、6月）は、3か月連続で前年を上回った。
- 新設住宅着工戸数（6月）は、2か月連続で前年を上回った。

＜企業活動＞

- 鉱工業生産指数（季節調整値、5月）は、前月比6.4ポイント上昇した。
- 公共工事請負金額は、4月～6月累計で前年同期比3.3%増となっている。
- TDB景気DI（6月）は42.3となり、2か月連続で上昇した。

＜その他＞

- 消費者物価指数（大阪市、6月）は、コアコアCPIはおおむね横ばいで推移している。
- 有効求人倍率（6月）は1.13倍となり、前月から0.02ポイント上昇した。
- 家計消費支出は、前年同月比1.3%増となり、6か月ぶりに前年を上回った。

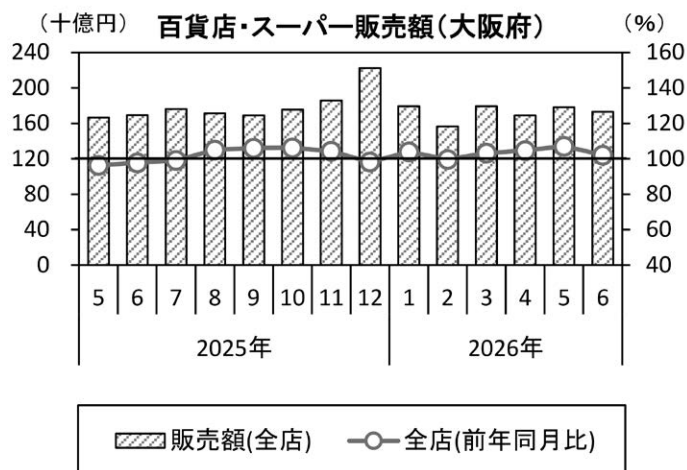
大阪府の経済指標の概況変化（前年同月との比較 ※一部は前月比較）

		2025年								2026年					
		5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
個人消費	百貨店・スーパー販売額	●	●	●	○	○	○	○	●	○	●	○	○	○	○
	新車販売台数(登録車、軽自動車〔乗用〕含む)	○	○	●	●	●	●	●	○	●	●	●	○	○	○
	新設住宅着工戸数	●	●	●	●	●	○	●	○	●	●	●	●	○	○
	家計消費支出(除く住居等、二人以上の世帯、大阪市)	○	●	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●	○	
企業活動	鉱工業生産指数 ※前月比	○	○	●	●	○	○	●	●	○	●	○	●	○	
	公共工事請負金額	●	●	○	○	●	●	○	○	●	○	○	○	●	●
	TDB景気DI ※前月比	●	●	●	○	●	○	●	○	●	○	●	●	○	○
物価	消費者物価(コアコアCPI、大阪市) ※前月比	○	－	○	○	●	●	○	●	○	○	○	●	○	●
雇用	有効求人倍率(季節調整値)	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

(注) ○：上昇(増加) ー：横ばい ●：下降(減少)、空白はデータ未発表

百貨店・スーパー販売額

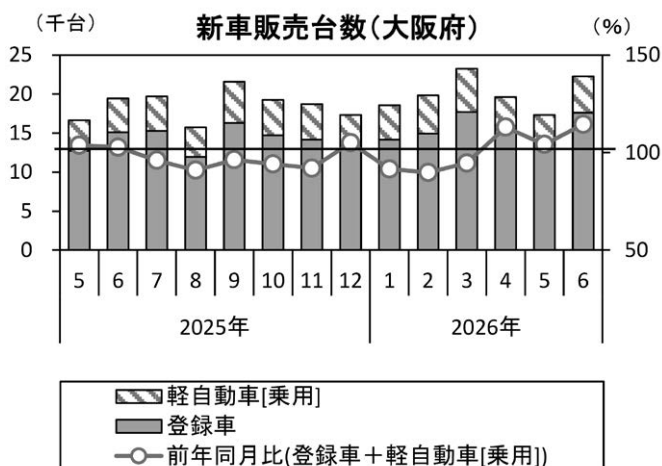
百貨店・スーパー販売額（6月）は、前年同月比1.8%増となり、4か月連続で前年を上回った。物価上昇によって販売額が押し上げられている面があるほか、百貨店では高額品、化粧品、身の回り品などの販売や、訪日客による消費が下支えした。ただし、財務省近畿財務局「管内経済情勢（令和8年7月判断）」では、スーパー販売額について、一部に節約志向がみられることから、「持ち直しのテンポが緩やかになっている」としている。



(資料)経済産業省「商業動態統計調査」

新車販売台数

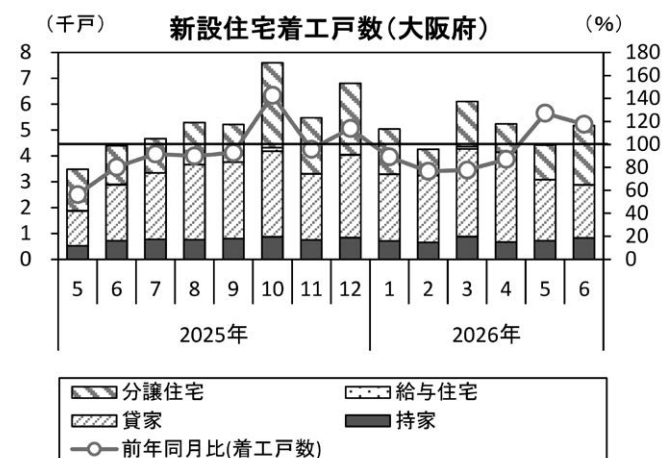
新車販売台数(軽自動車[乗用]含む、6月)は、前年同月比14.5%増となり、3か月連続で前年を上回った。内訳を見ると、登録車、軽乗用車ともに前年を上回っている。自動車税及び軽自動車税の環境性能割が2026年3月31日をもって廃止され、4月以降の購入時負担が軽減されたことで、需要が高まったものと考えられる。



(資料)一般社団法人 全国軽自動車協会連合会ウェブサイトならびに東京自動車販売協会「新車販売台数(登録車)」

新設住宅着工戸数

新設住宅着工戸数（6月）は、前年同月比17.5%増となった（増加は2か月連続）。大阪府では「貸家」や「分譲住宅」の割合が高く、都市部における共同住宅や分譲マンションの着工数が、全体の動向を左右する傾向にある。6月は、「分譲住宅」の着工数が、前年同月比52.5%増と大幅に増加した。ただし、内閣府「月例経済報告」によると、全国の住宅建設の状況は「弱含んで」おり、「持家」及び「分譲住宅」の着工戸数に弱さが見られる。背景には、建築コストの上昇などがあるものと考えられる。



(資料)国土交通省「住宅着工統計」

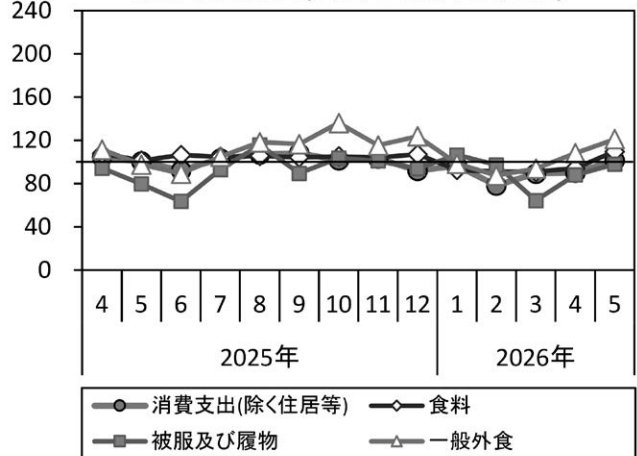
家計消費支出

家計消費支出（大阪市、除く住居等、5月）は、前年同月比 1.3% 増となり、6 か月ぶりに前年を上回った。費目別では、食料支出が 5 か月ぶりに前年を上回った。直近数か月は、米、生鮮野菜、調理食品等を中心に支出額が前年同月比で減少していたが、大型連休もあったことから、肉類、飲料、菓子類などの品目で支出額が大きく増加した。

その他の費目に関しては、光熱・水道費、被服及び履物への支出額が前年に比べて減少傾向にある。光熱・水道費に関しては、電気・ガス代の 7 月～9 月使用分に対して、国の補助制度が開始されることから、さらなる減少が見込まれる。

※調査対象の世帯が約 120 と少ない点に留意

(%) 家計消費支出(大阪市、前年同月比)



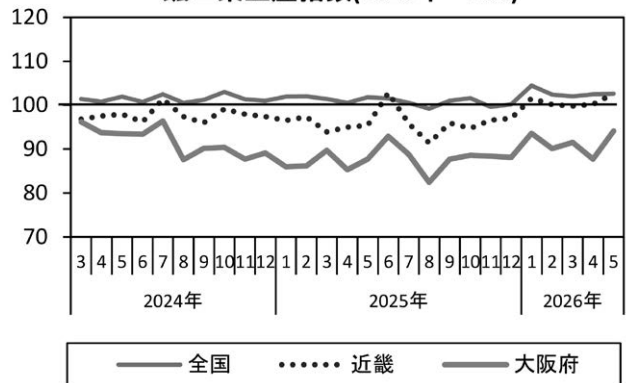
(資料)総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

鉱工業生産指数

鉱工業生産指数（5月）は、94.1 となっており、前月から 6.4 ポイント上昇した。ただし、依然として 100（2020 年基準）を下回る水準にある。業種別では、石油・石炭製品工業、生産用機械工業などで生産指数が上昇した。一方、プラスチック製品工業、パルプ・紙・紙加工品工業などでは生産指数が下降している。

全国の生産状況を見ると、業種間で好不調が分かれており、経済産業省は「一進一退」の状況にあると判断している。

鉱工業生産指数(2020年=100)



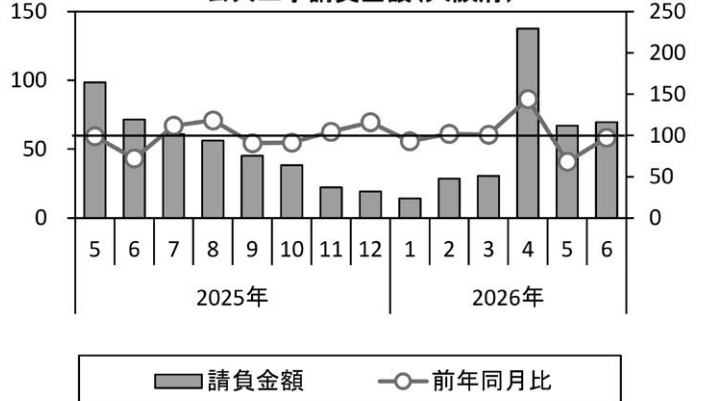
(資料)経済産業省「鉱工業指数」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」
大阪府「大阪の工業動向」

公共工事請負金額

公共工事請負金額（6月）は、前年同月比 2.8% 減となった。請負件数が増加する一方で、請負金額は減少している。

また、4 月～6 月累計での公共工事請負金額は、前年同期比 3.3% 増となっている。府内の公共工事の発注状況に関しては、底堅い動きが続いているが、現場の人手不足や資材価格の高止まりが工事の進捗に与える影響には注意が必要である。

(十億円) 公共工事請負金額(大阪府) (%)



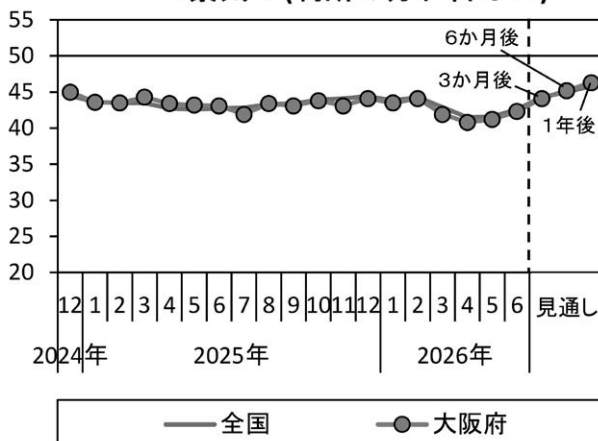
(資料)西日本建設業保証(株)「公共工事動向」

景況感 (TDB 景気 DI)

TDB 景気 DI は、(株)帝国データバンクが月次で実施している景気動向調査から算出された景況感を表す値である。この値が 50 を超えると、現在の景気を「良い」とする事業者数が「悪い」とする事業者数を上回る。

6 月の景気 DI は 42.3 となり、前月から 1.1 ポイント上昇した（上昇は 2 か月連続）。この結果について、帝国データバンクは、「中東情勢の緊迫感が和らいだことで、景況感は 2 カ月連続で改善した」と指摘している。ただし、先行きに関しては、「資材の調達不安や物価高に伴う個人消費の低迷などは当面続く見込み」とした。

TDB景気DI (判断の分れ目は50)



(資料) (株)帝国データバンク

消費者物価指数

消費者物価指数（大阪市、6 月）は、総合が前月比で横ばいとなる一方で、コアコア CPI（生鮮食品及びエネルギーを除く物価指数）は前月比 0.1 ポイントの下降となったが、おおむね横ばいで推移している。今後については、中東情勢等に起因する原油価格の変動がエネルギー価格に影響を与え、物価全体を押し上げる要因となることが考えられる。

消費者物価指数(大阪市、2020年=100)

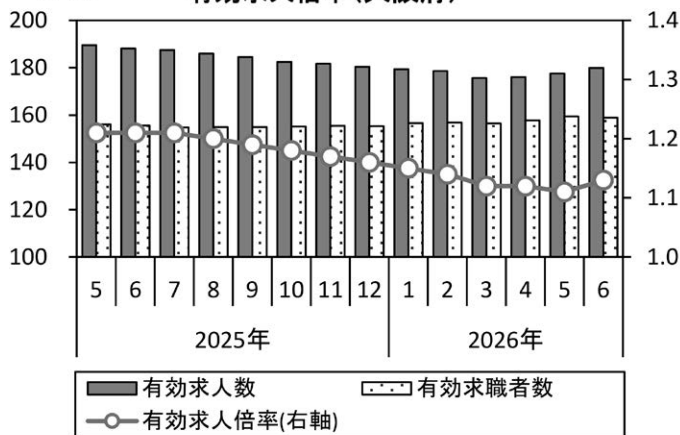


(注) コアコアCPIは食料(酒類を除く)及びエネルギーを除いた物価指数。
(資料) 総務省「消費者物価指数」

有効求人倍率

有効求人倍率（6 月）は、前月から 0.02 ポイント上昇し 1.13 倍となった。新規求人数が 12 か月ぶりに前年同月を上回った。業種別では、建設業、情報通信業、運輸業、郵便業、医療、福祉業などで新規求人数が増加しているが、製造業、卸売業・小売業、宿泊業・飲食サービス業などでは減少している。このような状況について、大阪労働局は、「現下の雇用失業情勢は、改善の動きが弱まっている」と判断している。

有効求人倍率(大阪府)



(資料) 厚生労働省「一般職業紹介状況」